

## 緒 言

産総研では2014年4月から新しく活断層・火山研究部門が発足しました。これまで主に活断層・地震に関する研究を担ってきた旧活断層・地震研究センターと、地質情報研究部門で、火山や長期地質変動の研究を担ってきた5研究グループとが一緒になって、地形・地質調査や各種観測を基に、地震・火山や数十万年単位の長期的な地質変動に関する地質情報の整備・将来予測の研究を行います。地震火山防災や地質変動現象に関わる研究を一元的に実施できる体制となり、これまで以上に多様な研究に取り組み、社会からの要請に応えていけるようになりたいと考えています。

さて、体制は変わりましたが、『活断層・古地震研究報告』はこれまでと同様に、継続して出版することとしました。本14号は、主に2013年度に進めた6編の調査研究の報告からなります。ここでは、文部科学省からの委託で実施した活断層補完調査の成果として長良川上流断層帯八幡断層に関する報告1編、沿岸海域における活断層調査の成果として、福井県美浜町沖合の三方断層帯および野坂断層帯に関する報告2編、山陰西部および九州北部沖の活断層分布調査の成果1編を報告しています。また、複合地質災害リスクプロジェクトの精密地形測量を中心とした房総半島南部における成果が1編。断層の連動性をシミュレーションによって検討した報告1編は民間資金と交付金予算による成果です。

本報告の内容や、今後の産総研の活断層・古地震を中心とした地震に関する調査・研究の公表の方法について、読者の皆様の忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。最後になりましたが、活断層・古地震の調査研究に際して、関係自治体、教育委員会、地元自治会、土地所有者、諸官公庁の皆様に深いご理解とご協力を賜りました。篤くお礼申し上げます。

平成26年10月31日

活断層・火山研究部門 研究部門長 桑原保人  
同 副研究部門長 増田幸治